

アイヌの 信仰 と 神社

日時 10月4日(日) 13時~16時(開場 12:30)

場所 新ひだか町アイヌ文化交流センター

開催 対面(無料)

お申し込み



左記 QRコードより **10月2日(金)12時まで**にお申し込みください。

お問い合わせ: 神奈川大学非文字資料研究センター

☎ 045-481-5661(代) ✉ himoji-symposium@kanagawa-u.ac.jp

《プログラム》

▼ ごあいさつ

砂本文彦 [司会]

神奈川大学国際日本学部教授
非文字資料研究センター研究員

▼ 主旨説明

中島三千男

神奈川大学元学長・同 名誉教授
非文字資料研究センター客員研究員

▼ 講演 / ディスカッション

「アイヌの信仰について」

菅原勝吉

特定非営利活動法人
新ひだかアイヌ協会民族文化専門員兼事務局長

「静内の小祠とアイヌの信仰」

山田一孝

静内神社宮司

「神社誌からみた神社とアイヌとの関係性」

前田孝和

元 株式会社神社新報社取締役
非文字資料研究センター客員研究員



会場所在地
北海道新ひだか町静内真歌 7-1

シンポジウム「アイヌの信仰と神社」主旨

北海道では、アイヌの人々が長く営んできた信仰の場と、近世以降に和人社会によって建立された神社という、異なる歴史的背景をもつ二つの祭祀空間が重層的に存在している。

そこで、アイヌの伝統的な信仰空間がどのように形成され、地域の自然環境や生活世界と結びついてきたのか、また、和人による神社がどのような意図や制度のもとで設置され、地域社会の中で役割を担ってきたのかを、多角的な視点から検討するシンポジウムを北海道新ひだか町・静内地域にて開催する。

そして、祭祀空間の重層性について再評価を行うことで、文化的多様性の尊重や地域史の再構築に資する成果を得る。

講演者紹介

菅原勝吉 | すがわらかつよし

特定非営利活動法人新ひだかアイヌ協会
民族文化専門員兼事務局長

32歳の時に、アイヌ語指導者育成事業でアイヌ語に触れて以来、アイヌ文化に興味を持ち、主にアイヌ語を中心として活動してきたが、近年では、言語以外に併せて勉強してきた文化風習にも目覚め、地元新ひだか町静内地区での伝統儀式の祭司を務め、昨年、今年と2年続けて英国のアイヌ遺骨返還の際に、祭司を務める。



新ひだかアイヌ協会のイチャルパ（先祖供養）



同上

山田一孝 | やまだ かずゆき

静内神社宮司

郷土史研究が趣味。1984年静内町アイヌ民俗資料館の概説書作成に執筆スタッフとして協力。北海道神社庁誌編纂に協力し、1996年から樺太の神社調査に従事。著書に翻刻『雪泥餘痕』（三吉笑吾著）、翻刻『航清紀行』（岩根静一著、「開拓使農業現術生徒の清国視察記」）、共著『樺太の神社』など。



双川神社



双川の中島

前田孝和 | まえだ たかかず

神奈川大学非文字資料研究センター
客員研究員

元株式会社神社新報社取締役、元北海道神社庁参事

海外神社、神社本庁史を中心に、特にハワイ、樺太、北方領土、近年は沖縄の近代神社神道史を調査研究。それに加えて海外神社の視点で「神社とアイヌとの関係性」も。著書に『ハワイの神社史』、共著として『樺太の神社』、『遷宮をめぐる歴史』、『首里城と沖縄神社―資料に見る近代の変遷―』など。



仙台藩の医師とされる湖水(こすい)居士(こじ)『耳端端乃記(みみののはし)』の「月多六福(エトロフ)建東照宮之説」部分、文化6年頃(1809頃)成立の明治24年写本(北海道大学附属図書館所蔵) 出典：国書データベース、<https://doi.org/10.20730/100418592>



箱館八幡宮大神菊池出雲守重賢(しげたか)「神社調子書(ちょうしがき)」、菊池が祭主となったクスリ場所弁天宮再建棟札控記録(北海道大学附属図書館所蔵)

神奈川大学非文字資料研究センター紹介

非文字資料の研究を通じた、包括的な人間・文化の理解を目的として神奈川大学に設けられた研究機関です。2003年に文部科学省に採択された21世紀COEプログラム「人類文化研究のための非文字資料の体系化」を母体とし、2008年にそれを受け継いで設立されました。「非文字資料」とは「人間の諸活動にまつわる情報が含まれた文字以外の物質的・非物質的資料」を指し、絵画・写真・動画・建築物道具・しぐさ・儀礼・音声・景観など多くの資料が対象です。これら資料の研究を通じ、世界とつながり人類文化を発信しています。

会場

新ひだか町
アイヌ文化交流センター
北海道新ひだか町静内真歌7-1

